



有松まちづくりの会役員会（10月26日）

10月に入り日本遺産有松を紹介する多くの企画が進行しています。竹田会長が仰るように、この企画を通して有松の優れた先人を知る機会になればと思います。11月開催予定の取り組みを紹介します。

○日本遺産ワークショップ：30年後に起こりうる大きな変化についてオンラインで話し合います。最終回。

11月29日(日) 13:30～ ミライ新聞の制作

□まちづくりシンポジウム：テーマ「持続的なまちづくりの可能性」のオンラインセミナー、初回。

11月27日(金) 18:00～ 講師:新山直広氏/エ芸ツーリズム



絞りジャンボのれん

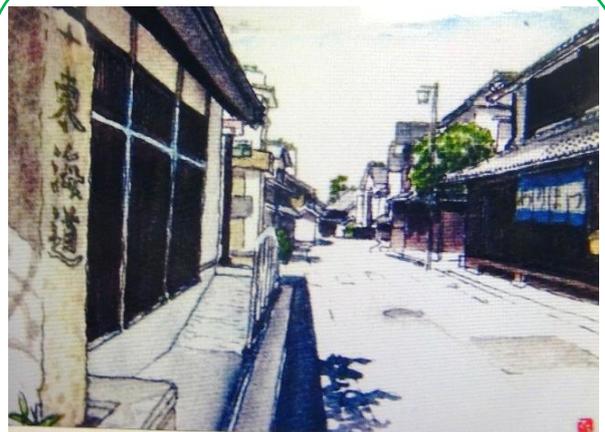
道するべ石柱「東海道・大府行縣道」移設される（10月5日）

有松東海道の無電柱化や重伝建の選定で、昔の町並み景観が有松に戻ってきています。有松山車会館の前にあった石柱も元の場所付近に戻されることになり、その移設工事が行われました。

有松郵便局から南へ行く道はかつて「分レ道」と呼ばれていた古道で、昭和3年(1928)大府行縣道として改修・格上げされました。その後、この石柱は東海道と県道との境に建てられたとのことです。昭和5年建築の大正ロマン漂う旧有松郵便局が写る写真を見ると、戦前は丸ポストの位置に石柱が建てられているのが確認できます。時期により丸型や角型ポストが設置されました。局舎はに町並みに合わせ江戸町家風に新築されました。

では、石柱はいつ頃山車会館前に移設されたのでしょうか。伝え聞くところによると、昭和63年(1988)の山車会館の建設時に植樹された松が枯れてしまい、その跡地に郵便局で保存されていた石柱が建てられたようです。この間の事情をご存じの方はお知らせいただくと助かります。

なお、山車会館前にはツゲの木が10月20日に植樹されました。



画：川口 廣次氏

(有松まちづくりの会会員)



天満社秋季大祭(神事)行われる(10月3日・4日)

かつて旧暦8月15日に五穀豊穰と感謝の祈念を捧げ、明治時代には町の繁栄とともに山車まつりへと変化してきた秋季大祭は、今年コロナ禍により山車の運行は中止となり神事のみで開催となりました。

10月3日(土) 前夜祭

掃き清められ提灯や幕が取り付けられた社殿に、19時過ぎから文嶺講総代長始め関係者10人程が集まり社殿の中で献灯祭が行われました。宮司による祝詞の後、御幣が梵天の先端に取り付けられ祭りの始まりです。

その後、梵天を先頭に約2kmの行程で町内を一巡。まず西の端の一里塚前で、梵天を中心に左回りで3周して折り返します。東海道を東に30分、松原の秋葉神社に到着。ここでも3周して祭礼本部の中町年行司に到着。神様はここで御一泊とのことです。

5m程ある梵天を掲げて歩くのは本当に大変。関係者以外の方も列に付いてきます。「ご苦労様」との声かけあり。幻想的な雰囲気醸し出されていました。

10月4日(日) 当日

11時半から、昨日同様のコースを西町→東町→中町年行司の順で御神幸が行われました。昨日のメンバーに3町の山車長なども加わり総勢20名ほどの行列です。街道にはこの神事を見ようと観光客が立ち並び、カメラのシャッターを押していました。

その後、13時から総参り。今年は、境内の津島社に寄り疫病退散の祈願をしてから参道を登りました。最後に、御幣を天満社にお返しして秋季大祭の神事は終了です。来年の大祭が無事行われますよう願っていました。

これまで山車の華やかさに隠れていた神事に気づかされた秋季大祭でした。

伝承される祭り・絞り座談会(10月4日)

山車まつり関係者との座談会が、20名近くの参加者を得て岡家住宅で行われました。各町のお囃子がBGMで流され祭りの雰囲気が醸し出される中、祭礼の歴史を語り合う場となりました。

司会(本田雅己氏:東町)と3名のパネリスト(早川紀雄氏:西町・山口弘氏:中町・後藤年秋氏:東町)の方々からは、祭りへの熱い思いが語られました。理解を深めるため、文化財審議会委員の鬼頭秀明氏も参加されました。年々劣化する山車の修理と如何に魅力的に山車まつりを後世に伝えていくのが課題であると確認されました。



2020.8.20 講演より

「有松浮世絵のウソ？ホント？」 名古屋市博物館学芸員 津田卓子

有松を描いた浮世絵にまつわる津田さんのお話は大変興味深いものでしたので、紙面で紹介させていただきます。

1. 有松に来ないで描かれた!?

有松を描いた浮世絵の中でもこの「保永堂版東海道」は、一番有名な作品です。天保6年(1835)頃のもので。従来、この少し前に広重が東海道を歩いたときの風景を土台にしていると言われていましたが、最近では有松に来ないで描かれたと考えられています。他に広重は10年後くらいに、有松絞りのお店から注文を受けて川村弥平と竹谷佐兵衛のお店の宣伝チラシを描いています。

どうやって広重は描いたのか。おそらく、地元の絵師が描いたものが広重の手元に送られ、それを参考に描いているようです。尾張藩には現地に行って描くタイプの絵師に小田切春江という人がいて、「尾張名所図会」というこの地方の地名辞典のようなものの中に竹田庄九郎のお店を描いたものがあります。それを見ると、お店を少し斜めから描き横から俯瞰して見えています。春江が描いたものが広重に送られ描いているのではないのでしょうか。今、竹谷佐兵衛のお店の一部は現存しています。Aigaeshiさんです。実物と絵を見比べると面白いです。虫籠窓は漆喰で固められているのですが、広重は木造の格子で描いています。墨で白黒で描かれたものが参考に送られていたのではないのでしょうか。

2. 商品宣伝のために描かれた!

竹谷佐兵衛のお店のものをよく見ると、表の入口すぐに干し場があるのに違和感があります。しかも10階建てくらいの柱に色とりどりの有松絞りが干されています。これは、「このお店で”色とりどりの絞り”を取り扱っている」という宣伝のための浮世絵だと理解できます。この演出が春江にも引き継がれて、名所図会では干し場自体見られないのに、明治直前に描かれた宣伝チラシ「丸屋丈助店先」には有松絞りが描かれています。お店の裏に描かれているところに春江の誠実さを見てとることができます。現在の岡家住宅です。同時期彼は、山形屋(小塚家住宅)も描いています。干し場が描かれ、さらに絵の中で天満社の灯籠が描かれています。今でいう「名古屋駅〇〇ビル前」というべきもの。地元絵師の演出が更に付け加わっています。宣伝チラシには「有松に来るとこんなお店があるんだよ」という旅情をかき立てるための広重の演出、それを学んだ小田切春江の演出が満載です。

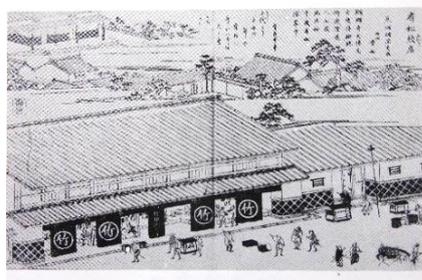
広重の「保永堂版東海道」には、道のカーブ、人の流れ、その視点の先に有松絞りのお店が描かれています。まさに旅人が主人と相談して絞りを買っていることが見て取れます。広重が有松の地でお姉さんを見かけて描いたのではなさそうです。



歌川広重「保永堂版東海道」



歌川広重「竹谷佐兵衛店先」



小田切春江「有松絞店」



上「丸屋丈助店先」下「山形屋五郎店先」

(講演要約：伊藤総俊)

有松の紙芝居のはなし 6「有松の汗かき地蔵さん」

(文：浅野康子 絵：福岡友一)

最新版の紹介です。絵担当の福岡さんは、「ちょっと色遣いを替えてみた」と。拝見すると、優しい雰囲気が出ていました。

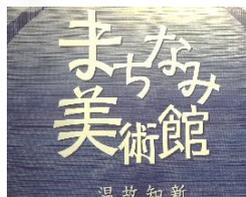
脚本の浅野さんは、この5作目について次のように語っていました。「中町の地蔵堂の真ん中にデンと座っておられるお地蔵さん。その昔、沓掛あたりから坊様に背負われて有松においでになったとか。石のお地蔵さんが大汗をかいて村人を病から救ったという伝説が地元にあります。これを紙芝居にしようと思い、あちこち取材しましたが、詳しい話は全くありません。有松で生まれ育った人に聞いても知らないとのこと。とにかくお地蔵さんのお顔が見たいと思い、地蔵堂に上がり込んで間近に拝見しました。なんとその優しい微笑みの素敵なこと、飛んで家に帰り一気に書きました。

そんなわけで、物語の中の沓掛あたりから貰ってきたこと、汗をかいて村人を病気から救ったこと以外の文章は、私の作り話です。地蔵堂の責任者の了解を得て紙芝居にしました。」 (完)



まちなみ美術館「温故知新」展示会場の紹介

400有余年に渡る有松絞りの歴史を藍染浴衣など残された資料で紹介。現代に継承されてきた有松絞りの魅力を広めるべく企画されました。



有松・鳴海絞会館(平日も、有料)：藍染絞りタペストリー
竹田嘉兵衛商店(平日も)：故竹田耕三コレクション藍染浴衣
中濱商店(営業日)：故竹田耕三コレクション藍染浴衣
井桁屋(営業日)：故片野元彦コレクション藍染浴衣

旧山田薬局・東海道日本遺産紹介処(土日祝日)：国際絞り会議の紹介パネル
棚橋家住宅(土日祝日)：雪花絞り・豆絞り他の見本裂 / アフリカ輸出の絞り裂
有松山車会館(土日祝日)：有松絞りの加工工程紹介

催事・行事の予定

～11月30日(月) 名鉄秋の有松キャンペーン (しぼり体験きっぷ・おさんぽきっぷ)
～11月15日(日) まちなみ美術館「温故知新」有松東海道沿い町家他

有松日本遺産推進協議会

11月01日(日) 12:50 銅像(信長・義元)建立10周年記念式典・イベント 桶狭間古戦場公園
11月08日(日) 10:00 サムライ・ニンジャフェスティバル 大高緑地 愛知県
11月14～15日 10:00 晩秋の有松を楽しむ会2020 有松東海道一帯 実行委員会
11月15日(日) 10:00 鯉活プロジェクト(ミニ鯉のぼりワークショップ) 絞会館
11月15日(日) 10:00 アリマツマーケット 有松天満社
11月16日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
11月22日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
11月23日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者：竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)
編集者：加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671 E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp



有松まちづくりの会は、ホームページを公開してます。

有松のまち

検索

